

モルッカ KS 「A 飼料」 (20Kg)

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019に準拠

作成日: 2022/12/02 改訂日: 2022/12/13 バージョン: 1.0

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : モルッカ KS 「A 飼料」 (20KG)
製品コード : SD-AN001

会社情報

株式会社エス・ディー・エス バイオテック
101-0022
東京都千代田区神田練堀町3番地
TEL:03-6867-8313

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性	生殖細胞変異原性	区分 2	計算方式
	発がん性	区分 1A	計算方式
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2	計算方式

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP) : 危険
危険有害性 (GHS JP) : 遺伝性疾患のおそれの疑い (H341)
発がんのおそれ (H350)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (H373)

注意書き (GHS JP)

安全対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること (P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと (P202)
粉じんを吸入しないこと (P260)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと (P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと (P270)
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。 (P280)

応急措置 : ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること (P308+P313)
気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること (P314)

保管 : 施錠して保管すること (P405)

廃棄 : 内容物、容器を国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること (P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
一般名 : モルッカ KS 「A 飼料」 (20KG)

化学物質名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
枯草菌 (バチルス サブチルス (その3))	0.5 - 2	-	-	-	-

炭酸カルシウム	98 - 99.5	CaOC ₃	(1)-122	既存化学物質	471-34-1
石英	< 3	SiO ₂	(1)-548	(1)-548	14808-60-7

4. 応急措置

応急措置

- 応急措置 一般 : ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚は多量の水で洗浄する。
- 眼に入った場合 : 予防措置として水で眼を洗う。
- 飲み込んだ場合 : 気分が悪いときは医師に連絡すること

医師に対する特別な注意事項

- 医師に対する特別な注意事項 : 対症的に治療すること

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤
- 使ってはならない消火剤 : データなし
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。
- 消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 十分に換気すること

非緊急対応者

- 応急処置 : 出動は、適切な保護装備を身につけた有資格者に限られる。
粉じんを吸入しないこと

緊急対応者

- 保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 製品は機械的に回収する。
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
- その他の情報 : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : データなし
- 安全取扱注意事項 : 作業所の十分な換気を確保する。
使用前に取扱説明書を入手すること
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
作業場における製品の放出を避けるため、または最小限にするため、技術的に必要なあらゆる措置をとる。
取り扱う製品数は必要最小限にし、ばく露使用者の人数を最小限に抑え

- る。
- 部屋の排気および全般的な換気を確保する。
- 個人用保護具を着用する。
- 危険エリア内の床、壁、その他の表面は定期的に清掃しなければならない。
- 粉じんを吸入しないこと
- 接触回避 : データなし
- 衛生対策 : 作業服と外出着とを分ける。個別に洗う。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること
換気の良い場所で保管すること
涼しいところに置くこと
- 安全な容器包装材料 : データなし

8. ばく露防止及び保護措置

石英 (SiO₂) (14808-60-7)	
日本 - ばく露限界値	
許容濃度(産衛学会)	【粉塵許容濃度】(吸入性結晶質シリカ)0.03 mg/m ³
許容濃度(ACGIH)	TWA 0.025 mg/m ³ (R), STEL -
アメリカ合衆国 - ACGIH - ばく露限界値	
ACGIH OEL TWA	0.025 mg/m ³ (respirable particulate matter)
ACGIH 化学カテゴリー	Suspected Human Carcinogen

- 設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。
- 保護具**
- 呼吸用保護具 : [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること
- 手の保護具 : 保護用手袋
- 眼及び/又は顔面の保護具 : 安全メガネ
- 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する
- 個人用保護具シンボル



- 環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 固体
- 色 : 灰色っぽい白
- 臭い : 特異臭
- pH : データなし
- 融点 : データなし
- 凝固点 : 非該当
- 沸点又は初留点及び沸点範囲 : データなし
- 引火点 : 非該当
- 自然発火点 : 非該当
- 分解温度 : データなし

可燃性	: 不燃性
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: 非該当
動粘性率	: 非該当
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しない。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では、避けるべき条件はない(第7項参照)。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: データなし
急性毒性 (経皮)	: データなし
急性毒性 (吸入)	: データなし

枯草菌 (バチルス サブチルス (その3))	
LD50 経口 ラット	≥ 2000 mg/kg

皮膚腐食性/刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: データなし
呼吸器感作性	: データなし
皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: 遺伝性疾患のおそれの疑い

石英 (14808-60-7)

生殖細胞変異原性	In vivo では、気管内注入によるラット肺胞上皮細胞を用いた hprt 遺伝子突然変異試験で陽性、投与方法は不明であるが、マウス肺組織の hprt 遺伝子突然変異試験で陰性、腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性、ばく露方法は不明ながら、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性、ラット肺、末梢血を用いた酸化 DNA 傷害試験で陽性又は陰性、ラット肺上皮細胞の DNA 切断試験で陽性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。In vitro では、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陽性、陰性の結果、哺乳類培養細胞の小核試験で陽性、陰性の結果、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。以上より、ガイダンスに従い、区分2とした。なお、本物質の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS (2013)、IARC 100C (2012))。
----------	---

発がん性	: 発がんのおそれ
------	-----------

石英 (14808-60-7)	
発がん性	多くの疫学研究結果において、本物質（石英）を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した（IARC 100C (2012)、SIDS (2013)）。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている（IARC 100C (2012)）。一方、実験動物では雌雄ラットに本物質（空気力学的中央粒子径 (MMAD) : 1.3 μm）を 1 mg/m ³ で 2 年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに本物質 (MMAD: 2.24 μm) を 12 mg/m ³ で 83 週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに本物質 (MMAD: 1.8 μm) を 6.1、30.6 mg/m ³ で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた（IARC 100c (2012)）。以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997 年に「グループ 1」に分類し、2012 年の再評価でも分類結果を変更していない（IARC 68 (1997)、IARC 100C (2012)）。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が「第 1 群」に（産衛学会勧告 (2015)）、ACGIH が 2004 年以降「A2」に（ACGIH (7th, 2006)）、NTP が結晶質シリカ（吸入性粒子径）に対して、「K」に分類している（NTP RoC (13th, 2014)）。よって、本項は区分 1A とした。
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: データなし
石英 (14808-60-7)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。なお、旧分類のヒトにおける呼吸器影響のデータは短期ばく露であり、単回急性影響のデータではない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（免疫系、呼吸器系、腎臓）
石英 (14808-60-7)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトにおいて、多くの疫学研究において、本物質の職業ばく露と呼吸器への影響（珪肺症、肺がん、肺結核）が確認されている。このほか、自己免疫疾患（強皮症、関節リュウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患、全身性紅斑性狼瘡、シェーグレン症候群、多発性筋炎、結合織炎）、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられている（SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)）。この腎臓の疾患は自己免疫が関連していると考えられている（SIDS (2013)）。実験動物においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されている（SIDS (2013)）。したがって、区分 1（呼吸器、免疫系、腎臓）とした。
誤えん有害性	: データなし
モルッカ KS 「A 飼料」 (20Kg)	
動粘性率	非該当
炭酸カルシウム (CaCO ₃) (471-34-1)	
動粘性率	非該当
石英 (14808-60-7)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般 : 本物質は水生生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。

水生環境有害性 短期 (急性) : データなし
 水生環境有害性 長期 (慢性) : データなし

石英 (14808-60-7)	
水生環境有害性 短期 (急性)	非晶質シリカを用いて試験されたデータで、甲殻類 (オオミジンコ) の 24 時間 LL50 > 10,000 mg/L、魚類 (ゼブラフィッシュ) の 96 時間 LL0 = 10,000 mg/L (いずれも SIDS, 2013) であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急性毒性は区分外であるが、無機化合物であり、急速分解性及び生物蓄積性に関する適切なデータが得られていないことから、分類できないとした。

残留性・分解性

モルッカ KS 「A 飼料」 (20Kg)	
残留性・分解性	データなし

炭酸カルシウム (CaCO ₃) (471-34-1)	
急速分解性でない	

石英 (14808-60-7)	
急速分解性でない	

生体蓄積性

モルッカ KS 「A 飼料」 (20Kg)	
生体蓄積性	データなし

土壤中の移動性

モルッカ KS 「A 飼料」 (20Kg)	
土壤中の移動性	データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : データなし
 その他の有害な影響 : 追加情報なし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を破棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

道路輸送 (UN RTDG)	海上輸送 (IMDG)	航空輸送 (IATA)	内陸水路輸送 (ADN)	鉄道輸送 (RID)
国連番号				
非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
国連正式品名				
非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
輸送危険物分類				
非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
容器等級				
非該当	非該当	非該当	非該当	非該当
環境有害性				
環境有害性 : 非該当	環境有害性 : 非該当	環境有害性 : 非該当	環境有害性 : 非該当	環境有害性 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

化審法 : 非該当

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9)

結晶質シリカ

名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9)

結晶質シリカ (政令番号: 165 の 2) (5%未満)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 非該当

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : 非該当

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。